

令和4年度 経営改革プラン

団体名	株式会社有馬温泉企業
-----	------------

設立年月日	昭和16年6月19日	
団体の設立目的・沿革	<p>(目的)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 温泉を湧出させる目的を以ってする掘さく</li> <li>2. 温泉の販売供給</li> <li>3. 管工事の設計施工請負</li> <li>4. 煙草、飲食物、日用品類の販売および飲食店の経営</li> <li>5. 前各号に附帯する事業及び関連する一切の業務</li> </ol> <p>(沿革)</p> <p>昭和16年6月19日 有馬温泉掘鑿有限会社を設立</p> <p>昭和54年6月1日 有限会社有馬温泉企業に商号変更</p> <p>昭和59年3月27日 株式会社有馬温泉企業に組織変更</p>	
団体の主な事業内容	事業名	所管課
	給湯事業・施設管理事業	経済観光局観光企画課
代表者	代表取締役社長 森 兼浩	

役職員数 (令和3年7月1日時点)	取締役		監査役		職員		合計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	有期	無期	
団体固有職員	-	-	-	-		3	3
市派遣職員	-	2	-	1		-	3
市OB職員	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	2	-	1	-	-	3
合計	-	4	-	2	-	3	9

財務状況(単位:百万円)	令和2年度	令和元年度	差引
経常損益	5	9	△4
税引後当期純利益	3	7	△4
販売費及び一般管理費	23	19	4
流動資産	50	46	4
流動負債	3	2	1
長期借入金(固定負債)	0	0	0
期末現金預金残高	49	41	8

■ 中長期的なミッション（神戸市行財政改革方針2025期間中のミッション）

ミッション①	顧客満足度の高いサービス提供
ミッション②	安定的なサービスが提供可能な人員体制・財務体質の確立
ミッション③	団体への市の関与

■ 短期的なミッション（令和4年度のミッション）

ミッション①	泉源管理技術の向上にむけた研究
ミッション②	泉源施設の適切な管理・保全
ミッション③	単年度黒字の確保と株主への安定配当

■ 経営指標（令和2年度）

経営指標				令和元年度	令和2年度	前年度比増減	令和元年度実績中小企業実態基本調査による業種別平均値
人的パフォーマンス	職員一人あたり純利益	純利益/職員数	職員1名あたりが、どの程度の利益を上げているか。(百万円)	3.390	1.137	-2.3ポイント	0.088
	経常費用人件費比率	人件費/経常費用×100%	経常費用に占める人件費の割合がどの程度あるか。	14.02%	20.96%	6.9ポイント	19.62%
財政的パフォーマンス	総資本経常利益率	経常利益/総資本×100%	経常的な収益性はどの程度見込まれるか。	13.75%	6.97%	-6.8ポイント	4.40%
	流動資産回転率	売上高/流動資産×100%	流動的な資金が効率的に運用されているか。	95.38%	83.61%	-11.8ポイント	204.53%
財政安定性	流動比率	流動資産/流動負債×100%	短期的な資金をどの程度確保できているか。	1882.09%	1749.44%	-132.7ポイント	173.66%
	自己資本比率	自己資本/総資本×100%	団体固有の資本がどの程度あるか。	89.44%	89.11%	-0.3ポイント	46.77%
持続性	自己資本当期純利益率(ROE)	当期純利益/純資産×100%	資本を効率的に運用しているかか。	11.69%	5.74%	-5.9ポイント	3.39%
	純資産増加率	(当期純資産-前期純資産)/当期純資産×100%	純資産が持続的に増加しているか。	8.24%	2.37%	-5.9ポイント	5.71%

■ ミッション工程表

ミッション名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度～								
中長期的ミッション												
顧客満足度の高いサービス提供	泉源・給湯施設の定期的な保守管理、適切な更新等の実施											
安定的なサービスが提供可能な人員体制・財務体質の確立	目標に向けた安定的な利益の確保											
団体への市の関与	退職に伴う職員の採用(1名)・研修の実施											
団体への市の関与	継続的に協議し、必要な事項から実施											
ミッション名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
短期的ミッション												
泉源管理技術の向上にむけた研究	作業・施設等の改良の検討、実施											
泉源施設の適切な管理・保全			○有明1号泉リーミング工事 ○極楽泉源給湯管新設工事									
単年度黒字の確保と株主への安定配当		○配当の実施		○第1四半期決算（取締役会）			○中間事業報告（取締役会）			○第3四半期決算（取締役会）		

■ ミッションを踏まえた団体目標

目標及び実現方法	目標 (できるだけ達成度を表す数値目標も記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 営業利益 4百万円以上を確保する。</li> <li>・ 純利益 3百万円以上を確保する。</li> <li>・ 配当は2百万円を実施する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (給湯業) 有明1・2号泉源からの温泉の安定供給を図る。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (給湯業) 極楽泉源給湯施設の安定運営を図る。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (施設管理事業) 泉源管理技術の向上に向けた作業方法等の検討を行いながら、信頼性の高い施設管理(天神・御所・妬・極楽の各泉源)を実施する。</li> <li>・ 技術継承のため、適切な人員体制を確保する。</li> </ul>

■ 市支援策の活用状況

<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体共通内部通報窓口	<input type="checkbox"/> 経営懇談会	<input type="checkbox"/> 外郭団体職員向け研修	<input type="checkbox"/> 民間代替性調査
<input type="checkbox"/> 専門家紹介制度	<input type="checkbox"/> 経営診断	<input type="checkbox"/> 企業統治状況調査	

■ ミッションの達成状況（団体自己評価）

（１）中長期的ミッションの達成状況

- ・ 泉源、給湯施設の定期的な保守管理（配管・貯湯施設の清掃、部品交換等）、適切な更新を実施している。
- ・ 退職に伴う職員の採用（1名）ならびに研修（OJT）を実施することにより、安定的なサービスが提供可能な人員体制の確立を図っている。
- ・ 団体への市の関与に関し、継続して協議している。

（２）短期的ミッションの達成状況

- ・ 泉源管理技術の向上にむけ、作業・施設等の改良（泉源・給湯施設等の保守管理の効率向上）を検討した。
- ・ 泉源施設の適切な管理・保全のため、有明1号泉のリーミング工事を実施した。
- ・ 有明1号泉リーミング工事の実施により単年度黒字は確保できなかったものの、安定配当を念頭に財務状況も勘案し、当年度については株主への配当を実施した。

（３）市政への貢献・市民への還元状況

- ・ 有馬温泉の重要な観光資源である「金泉」について、自社泉源（有明1・2号泉）、自社給湯施設（極楽泉源給湯施設）の安定運営、市有泉源（天神・御所・妬・極楽）における信頼性の高い施設管理等により、顧客（市・宿泊事業者等）への安定供給を図っている。

■ 外郭団体マネジメント推進本部の評価

（１）総合的意見

日々の泉源の適切な維持管理や人員体制の整備により、顧客へ安定的なサービスを提供し、有馬温泉の観光振興に寄与している。しかし、有明泉源のリーミング工事の実施により単年度黒字を確保できていないことが課題である。

（２）数値目標の状況

評価項目	評価・指導
中長期的ミッション	泉源の維持管理を通して顧客へ安定したサービスを提供している。しかし、財務体質については、有明1号泉源のリーミング工事期間中、同泉源の給湯を停止したことや同工事の実施により修繕費が増加したこと等により、営業損失や経常損失が発生し令和4年度の純損失が大きくなったため、厳しい状態が続いている。
短期的ミッション	泉源の適切な管理を実施しているものの単年度黒字を達成していない。
団体目標	営業利益の確保について達成できていない。
市への貢献・市民への還元状況	泉源の適切な維持管理により市の観光振興に貢献している。

（３）今後の方向性

- 団体の存廃も含めた検討を要する団体
  継続的な見直しを要する団体
  取り組みが着実に実施され成果が上がっている団体